

1 主題設定の理由

宮崎市の第三次教育ビジョンでは、基本理念として「一人一人の可能性を最大限に伸ばし、多様性を認めながら、未来にわたって誰もが自分らしく生きていくことができるよう、宮崎ならではの魅力ある教育の実現」を目指している。

そのなかで、3つの基本目標を設定し、基本目標1は「一人一人の個性や、多様性に対応した魅力ある学びを通して、自ら未来を切り拓く子どもの育成」を目指している。施策1として「自ら選択し決定できる主体的な学びの充実」を設定し、「教員の教えやすさ」から「子どもの学びやすさ」への授業観の転換と実践や探究的な学びの充実と情報活用能力の育成を目指している。

そこで、本班では、本市の教育基本理念の実現や令和の日本型学校教育の具現化を目指すための各学校での授業改善の取組をまとめ、教頭としてどのように関わっていけばよいかを明らかにするために本主題を設定した。

2 研究のねらい

令和の日本型学校教育の具現化を目指すための各学校での授業改善の取組とその取組に対する教頭の役割について考察し、教育活動の充実につなげる。

3 研究の概要と成果

(1) 大淀中学校の取組

① 具体的な取組

- ア 授業や家庭学習における効果的な ICT の活用
- ・各種調査結果の分析及び生徒の実態の把握
 - ・「ひなたの学び」の実践と個別最適な学びにつながる授業や家庭学習における ICT の効果的な活用
 - ・積極的な授業公開
- イ 大淀の「ひと・もの・こと」を活かしたキャリア教育の推進
- ・全体計画の再構築
 - ・探究活動、体験活動の見直し

② 教頭としての関わりと課題

教頭は、校長の方針を具体化し、組織的な授業改善を牽引する「実務リーダー」といえる。研究授業の企画や ICT 活用の推進、教員へのフィードバックを通じ、学校全体の指導力向上を支えることはできたのではないかと考える。その際、次のような視点からフィードバックを行った。

- ・めあて（課題）の提示
- ・生徒の主体的活動
- ・ICT の活用
- ・振り返り
- ・板書、掲示

一方で「時間の確保」と「心理的支援」の両立などが課題として考えられる。膨大な事務やトラブル対応に追われ、授業参観の時間が削られがちである。また、多忙な教員への配慮やベテラン層との調整など、複雑な人間関係のマネジメントも大きな負担となっているのではないかと感じる。

(2) 生目中学校の取組

① 個別最適を実現する自由進度学習の指導への取組

ア 5月に県教育研修センターから指導主事を招いて「自由進度学習」についての講義を受けた。

イ 夏休みまでに、各自の授業のなかで「生徒が学びを選択・決定できる場面」を設定した授業を考え、実践した。

ウ 9月に各教科での振り返り、10月に全体での振り返りを行い、今後の授業改善へとつなげた。

(3) 生目南中学校の取組

① 週28時間で教育課程を編成し、日常にゆとりのある教育活動を創出した。英検や漢検を勤務時間で実施したり、地域のボランティア活動に参加したりした。特に業務がないときは、職員は、教材研究など自己研鑽の時間として活用している。

② 複数担任制を夏季休業明けから試験的に導入し、職員の業務の平準化と標準化に努めている。道徳の授業は、題材ごとに教員が担当し、全ての学級を担当する。また、朝の会、帰りの会や生活の記録（南中ノート）を輪番で担当して業務にあたっている。

(4) 大塚中学校の取組

① 具体的な取組

ア 子どもを主語にした誰一人取り残さない「わかる・できる」授業の実践

イ 学び合い高め合う研修の計画と実施
「事前研究+研究授業+事後研究」をパッケージにした授業改善研修の計画と実践を行った。

ウ 子どもたちの「未来づくり」を支え

る総合的な学習の時間を軸としたキャリア教育の充実

エ 子どもたちの「学校適応感」と「規範意識」を高める道徳授業プログラムの実践

② 教頭としての関わりと課題

ア に関しては日頃の授業を参観し、生徒の様子を観察するなどして授業担当者との情報交換などを行った。また、中間ミーティングやフィードバックの際に授業の状況に関するコメントができるようにした。

イ においては、すべての授業を参観し、事後研修の際に授業改善に向けたアドバイス等を行ったり全体研修の進行等を行ったりした。

ウ に関しては、外部から協力をいただく際の窓口となるなどの役割を担った。課題としては、生徒が生活する時間帯に授業や生活の様子を見る時間を確保する必要があることがあげられる。そのために他の業務効率を上げる等の工夫が必要である。

(5) 生目台中学校の取組

① チーム担任制

全学年チーム担任制を導入し、原則毎週MTとSTのローテーションを行っている。チーム担任制により、学年通信作成や道徳授業についても学年担当者が分担し、計画的に実施している。チーム担任制を推進するにあたって、情報交換の時間確保が必要になる。そのため、金曜日に20分間の職員会を行い、全体及び学年の共通理解の時間としている。

チーム担任制を推進していく中で、学年全体への共通指導と情報共有の方法や時間の確保が課題である。

② 45分授業×午前中5時間

生徒が主体的に学ぶ時間の構築と職員研修時間の確保のために、45分授業×午前中5時間+午後1時間とFQ(フューチャークエスト)タイムの校時程を11月から運用している。水曜日以外はFQタイムとして、6校時後に生徒が主体的に学ぶ時間として30分間の学習に取り組む時間を確保しているが、校則検討委員会や各種委員会活動等を行う時間ともしている。このことにより、放課後や昼休みに行っていった活動を生徒が下校するまでの時間に実施することができるようになった。また、水曜日は午後2時には生徒が下校するため、各種会議や諸事務の時間を確保できるようになった。

(6) 高岡中学校の取組

① 確かな学力の向上(生徒が主役の授業づくり)

○個性を生かし能力を育む指導の工夫(AIドリルの活用)

○自由進度学習の導入

② 豊かな心の育成(自己有用感、自己肯定感の醸成)

○自己肯定感醸成のための環境整備

○教育相談、学校生活に関するアンケート

③ 地域と連携した教育の推進

○地域人材を活用したキャリア教育の推進
本校の高岡ゆめパークⅠ・Ⅱ・Ⅲ(各学年で実施)では高岡地区の事業所や地域の方、高岡まちづくり委員会に協力をいただきながら実施できている。

④ 教育を支える環境づくり

○学年チーム担任制の導入

学年チームの人間関係づくりと情報共有の仕組みづくりが大切である。すべての教員が一人ひとりの生徒に寄り添う、見守る、いいところを見つけ、認め、共有するという姿勢が大切である。

○校時程の見直し

45分5時間授業と6時間目終了後30分のKタイム(兼寛タイム)を実施している。最後のモジュールの時間で自己調整学習・読書・生徒会活動・学年の時間等、有効活用している。

○服務規律の徹底

R7コンプライアンス推進プログラムに基づいて計画的に実施してきた。

4 今後の課題

教頭は、校長の補佐として、教育課程の編成・実施における中心的役割を担っている。学習指導要領に基づき、学校の教育目標や生徒の実態に応じたカリキュラムの策定、時間割の調整、教員への指導・助言、授業改善の推進、実施状況の評価と改善など、教育活動全般のマネジメントに関わっている。

しかし、その業務は教育課程のみならず、生徒指導、保護者・地域対応、教職員の労務管理、学校運営に関わる事務処理など極めて広範かつ多忙といえる。

課題としては、新学習指導要領への対応(GIGAスクール、主体的・対話的で深い学びの実現、新観点別評価など)を推進しつつ、教員の働き方改革や多様化する生徒(不登校、特別な支援ニーズ等)への対応を求められる点にあると思われる。

教育の質の向上と、山積する校務・管理業務との両立こそが最大の課題ではないかと感じる。